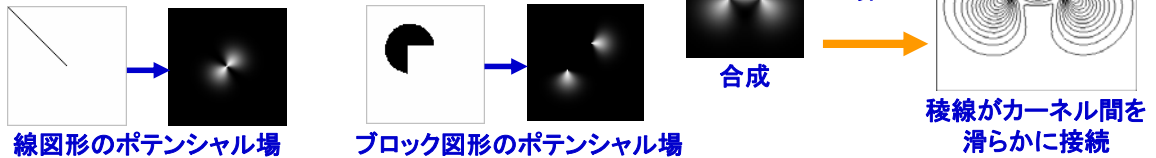


主観輪郭線モデルとその応用

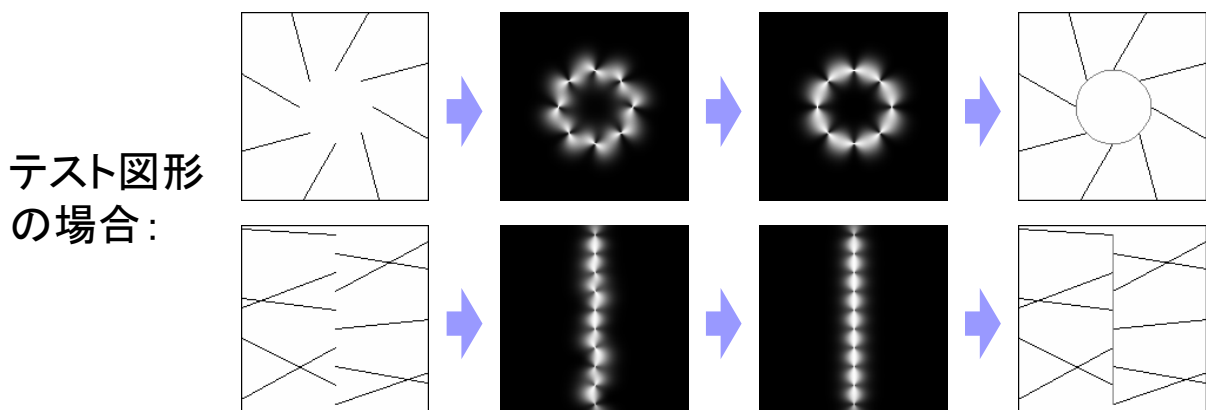
- 人間の視覚系には実際は見えない輪郭線を補う機能がある。例えば右図では、それぞれ円、正方形、波線、折れ線を知覚する。これを主観輪郭線という。
- ここでは、図形・画像を与えた場合、人間が感じる主観輪郭線を導出するモデルを提案する。
- 本手法の処理の流れを次に示す。

1. 線図形とブロック図形の分離
2. カーネル(知覚のきっかけとなる座標)検出
3. ポテンシャル場(知覚の可能性)生成
4. ポテンシャルの合成
5. 稜線追跡と主観輪郭線の確定
6. ポテンシャル場最大化による補正

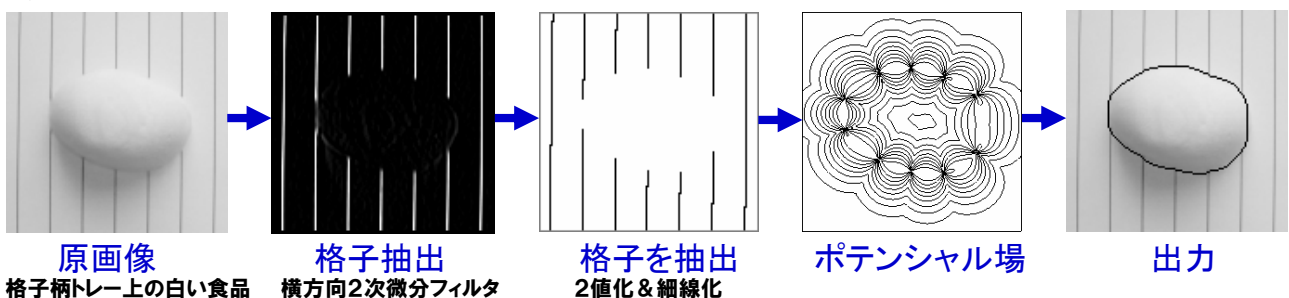


1

主観的輪郭線の生成例



実画像(産業用画像処理):



2